

- 校内模試スケジュール
- 中間考査に向けて
- 夏期講習申し込み 3年

## 「 未知の世界を歩いていくために 」

保健体育科 教諭 新戸 政輝

2017年3月現在、大学卒の就職率が97.6%と年々上がってきている。その反面、大学卒の3年以内の離職率は30%にも上る。就職活動でたくさんの企業の入社試験を受けて採用されたにもかかわらず、辞めてしまう原因として、仕事と自分のイメージがあっていないというミスマッチが起こっているという指摘がある。

皆さんは、シンギュラリティ（技術的特異点）という言葉聞いたことがあるだろうか。

シンギュラリティとは人工知能の能力が人間の知性を超えることをいい、2045年までには人類が予測できない域に達するといわれている。これを、2045年問題と呼んでいる。

現在、人工知能（AI）の開発が進んでいる。人工知能とは、コンピュータを使って、学習・推論・判断など人間の知能のはたらきを人工的に実現したものである。この人工知能が2045年までに人間の知性を超えると言われている。

このシンギュラリティに到達すると、人間の生活はどうなるだろうか。人工知能は自ら進化していくため、そのうち人工知能が人工知能を生み出し、今まで人間にしかできなかったことが機械によって代替される。例えば、自動運転化された自動車であれば、音声入力で目的地を指定、車体の周囲の状況を識別し、事故や渋滞の予測から目的地までの最適な経路を見出し、運転することができるようになる。このように、車を使う仕事を例にとっても、半分が人工知能やロボットに代替されると言われている。

シンギュラリティを迎えた後の社会は未知な部分が多く、だれも予想できない。その時の世の中では、人類は、これまでに誰も経験したことのない問題を解いていくことが要求される。つまり、これまで、社会から要求される力があって、その力を学校や家庭、地域社会で培っていくことがモデルとされてきたが、そもそも、社会から要求される力が変わってくることを示している。

この難題に対する一つの答えを新宿高等学校の教育目標に求めることができる。「全員指導者たれ」とあるが、これは、どんな難しい状況に置かれても、人々の先頭に立つ勇気が求められている。これまでに経験をしたことがない事態に陥ると、個人の利益を優先し、わがままや、身勝手な行動が見られるものである。そのような状況にあっても、周囲の人々と話し合っ、気持ちを通わせ、進むべき方向を意思決定していく。個人では叶わない集団の大きな力で、困難を乗り越えていくことが、先頭に立つ勇気と言える。そのためには、クラスの中でも、部活動でも、地域のボランティア活動でも、率先して取り組むことを実践してほしい。

## 30年度 校内模試スケジュール

新宿高校ではいくつかの外部模擬試験を、実力テストなどとして、校内で実施し全員に受けてもらいます。駿台や河合の模試は校外会場でも実施されますが、同じ模試の場合は外会場では受けないで校内で受験してください。学年ごとの予定は以下の通りです。

### 1年生

- ・スタディーサポート1年用(ベネッセ) 5/2 水
- ・進研模試7月(ベネッセ) 7/9 月
- ・進研模試11月(ベネッセ) 11/6 火
- ・全統高1記述模試(河合塾) 1/19 土
- ・河合塾学びみらいPASS 3/11,12

### 2年生

- ・進研模試7月(ベネッセ) 7/9 月
- ・進研模試11月(ベネッセ) 11/6 火
- ・全統高2記述模試(河合塾) 1/19 土
- ・河合塾学びみらいPASS 3/11,12

### 3年生

- ・第1回全統記述模試(河合塾) 6/1 金
- ・駿台全国マーク模試 7/9 月
- ・(第1回駿台ベネッセマーク模試 自由参加  
9/16日※外部会場で受験)
- ・第2回駿台ベネッセ記述模試 10/7 日
- ・第3回全統記述模試(河合塾) 10/16 火
- ・第3回駿台ベネッセマーク模試 11/6 火
- ・全統センター試験プレテスト(河合塾)  
11/25日※外部会場で受験

※ 3年生はこの他に、各自が必要に応じて模試を受験します。主な試験は学年から連絡済みです。

3年生の9月16日(日)の模試は自由参加ですが、文化祭後の切り替えに受験するのも良いでしょう。11月25日(日)の河合センタープレは外会場での受験になりますが、申込み手続きは学校が一括して行います。

3年生の模試ではマークと記述を組み合わせでドッキング判定が行われます。

まず、10月7日(日)の第2回駿台ベネッセ記述模試と11月6日(火)の第3回駿台ベネッセマーク模試とでドッキング判定が出来ます。また、これとは別に、10月16日(火)の河合塾の第3回全統記述模試と11月25日(日)の河合塾センタープレテストでもドッキング判定が出来ます。

駿台ベネッセと河合塾それぞれでドッキング判定が出るわけですが、これらはさらにセンター試験本番の結果とのドッキング判定も可能です。こうした判定結果を参考にして最終的な出願校を決めていきます。

## ○前期中間考査迫る 5/25・28～31

学力の伸び方は教科、科目によってさまざまです。英語や国語は積み重ねの教科ですから、地道な努力を続けるほかはありません。だからこそ、1年生の時から授業を大事にし、定期考査ごとに自分の弱点を分析し、克服していくことが大切です。これに対し、地歴・公民や理科の科目は、1年の時だけ、あるいは2年の時だけしか授業がないという科目があります。そういう科目で受験を考えている人は、その時の授業がまさしく受験勉強そのものでもあります。1年生だから受験はまだ先の話、とはいきません。あとでもう一度ゆっくり勉強し直そうと思っても、実際にはそういう余裕はありません。学ぶべき事は次々出てきます。「定期考査は恰好の問題集」とも言われます。答案用紙が返却されたら少なくとも間違えた問題は解き直しましょう。

1年生にとっては最初の定期考査。いまからしっかり計画を立てて準備しましょう。最初の考査で波に乗ることがペースをつかむ上で重要です。多くの卒業生も「最低でも定期考査だけはしっかり取り組んだ。」と言っています。

## ○夏期講習申し込みについて（3年生）

3年生向けの夏期講習の予定一覧が発表になりました。講座内容をよく確認の上、期日までに申し込みを行ってください。

申し込みの際は以下の点に注意。

### ① 欲張ってとりすぎない

予習や復習が必要になりますから、一日に2講座程度がよいでしょう（やむを得ない場合でも3講座）。夏期講習をとおしては10講座ぐらいが限度だと思います。

### ② 学習の主体はあくまで自分にある

皆さんが自分で夏休みの学習計画をたて、その中に夏期講習を上手に利用するという考え方がいいでしょう。受身の学習ではなく主体的に学習計画を考えましょう。

### ③ きちんと出席する

皆さんの出席予定に合わせて先生方はプリントの準備をしています。一度出席すると決めたら最後まできちんと出席しましょう。

### ④ 生活リズムを崩さないためにも

目覚まし時計代わりに使うのもアリです。

### ⑤ 先生によく聞く

講座内容などが分かりにくい場合は担当の先生に直接聞いてから申し込みましょう。勝手な思い込みで申し込むと、後々お互いに辛くなります。

## ○進路室ルール

3階に「進路指導室」、「進路指導資料室」が並んであります。（さらにその廊下奥に「進路室」がありますが、ここは3年生の担任の先生が使う学年部屋です。）

「進路指導室」には進路部の先生方が常駐しています。聞きたいこと、相談したいことがあればいつでも来てください。

「進路指導資料室」は別名「赤本部屋」。大学の過去問や、さまざまな資料が閲覧できます。出入り自由。廊下の棚のものも含めて、赤本は赤本ルールに従って借りられます。それ以外の資料は進路指導室の先生に相談してみてください。3年生はもちろん、2年生、1年生もどンドン利用してください。

## 奨学金・教育ローンについて

1階経営企画室の掲示板、および3階進路指導室の掲示板に奨学金関係の連絡が掲示してあります。

今はちょうど「日本学生支援機構」による大学生向け奨学金の予約申し込みの時期です。3年生には全員にプリントも配布されています。よく読んで必要な人は手続きを行ってください。「国の教育ローン」のパンフレットも届いています。進路指導室前の廊下にありますので自由に持ち帰ってください。

## 先輩からの言葉

# 新宿高校生が世界最大級に「幸福」である理由

藤本貴之（新47回）東洋大学 教授／博士（学術）

私が新宿高校に入学したのは1993年のことなので、もう25年前、4分の1世紀も昔のこととだ。しかし、中学3年の時に新宿高校を志望した理由は、今も強く覚えている。「新宿高校は新宿にあるから」である。具体的に言えば、

「新宿は日本一の繁華街（＝大都会）である、そこにある新宿高校は面白いはずだ」という単純なロジックであった。ようは日本で一番の繁華街、すなわち日本最大の情報の集積地に自分を置きたかった。当時の成績であれば新宿高校よりも上

位の都立高校へも合格できると担任の教員に言われたが、それでも新宿高校を第一志望に、他に滑り止めや第二志望なども受験はしなかった。なぜ、日本一の情報集積都市に自分をおきたかったかと言えば、情報量が多ければ多いほど、自分が得られる情報も増えると考えていたからだ。その「増える部分」は、おそらく教科書や学校が教えてくれない、刺激的なものばかりである、と中学生ながらに確信していた。

私は現在、大学教員という職業柄、学会などで海外に行くことも多く、これまでかなり色々な国を訪れた。その結果、新宿という都市が、世界でもっとも魅力的で刺激的な街のひとつである、ということを改めて確信している。

もちろん、日本人が憧れる世界の大都会、世界の街もたくさんある。しかし、それらいかなる街でも、新宿を超える大都会、もっと具体的に言えば、新宿を凌駕する情報集積都市は存在しない。新宿では、良い意味でも悪い意味でも、望めばなんでも手に入る。やりたいことはほぼ、できる。最新の情報が手軽に入手できる。最先端の知識と文化や流行が溢れている。にも関わらず、いたるところに大きな公園があり、摩天楼を眺めながらゆっくりとした時間を過ごせる。新宿のような世界的な繁華街で、これほど安全な場所もない。

そんな新宿のど真ん中にある新宿高校は、世界一刺激的な高校というわけだ。

海外で（それなりに日本を知っている）外国人と話をした時、母校が新宿駅徒歩5分にある、と言うと100%驚かれる。そんな場所に学校があるのか！と。しかも、進学校なのか！と。

世界最大級の繁華街・大都市で、大量の情報のシャワーを浴びることのできる高校に毎日通うことができる幸福ほど尊いものはない。少なくともこれを読むかもしれない現役新宿高校生諸君は、世界で一番幸せな高校生である可能性があるのだ。

世界最大級の情報集積都市のど真ん中にある高校に通えることがなぜ幸福であるのか？愚問かもしれないが、念のため書いておこう。情報量への接触量、すなわち知識の量こそが、自分の意思決定あるいは判断の基準を高め、広げてくれるからである。

人間が絶対できないことは、「自分の知らないことを想像する」ということである。どんな天才であっても、人間は自分の知らないことは想像できない。では、自分が知らないことを想像するために、人間は何をするのか。それは、自分が知っている「既知の何か」から類推し、想像するしかないのだ。

既知の何か、すなわち自分自身の情報量、知識量が少なれば少ないほど、類推できること、つまりは「想像できること」が少ない。情報量・知識量は想像力に直結する。

世界最大の情報集積都市・新宿に日々接触できるということは、毎日が自分の情報量・知識量を広げるチャンスである、ということでもある。それは自らの想像力／創造力を拡張させることに他ならない。世界最大級の情報量を嫌というほど浴びることのできる新宿高校生は、世界最大級に幸福な高校生である。あらゆる可能性を広げることのできる、世界的に見ても類い稀なる幸福を活かすことができれば、誰でも何にでもなることができる。夢は尽きない。

この幸福を現役新宿高校生の諸君（そして保護者や関係各位）は決して忘れず、最大限に活かして欲しいと強く願う。

（同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。）